

学校生活や放課後の過ごし方について

北内奎伍

【はじめに】

派遣前にシンガポールについて調べていると、学校への登校時間がとても早い、部活動に必ず入らないといけない、などの記事を見つけました。本当にそうなのか自分で確かめてみたいと思ったのでこのテーマにしました。

【シンガポールでの実際の様子】

シンガポールでは、バディの方と同じ生活を体験することができました。

まず学校へ登校する日は、朝5時30分ごろに起き、準備をはじめます。朝食は食べずに、6時ごろ家を出発しました。朝はバスやMRT（地下鉄）を利用して移動する人が多いようです。そのためバスなどは満員の状態でした。

学校生活では、日本にはない中国語の授業がありました。私が行った学校では昼休憩の時間が40分あり、その時間内に食堂で昼食をすませます。食堂にはチキンライスやカレーなど色々な食べ物があり、安い値段で買うことができました。また、バスケットボールやサッカーをすることもできました。

授業は15時ごろに終了します。放課後はCCAという、日本の部活動と同じようなことをします。所属している部活動によって日程が決まっているので、活動がない日もあります。CCAにはサッカー、野球などの有名なスポーツ以外に、水球クラブやギタークラブなど、珍しいものが見られました。

バディは毎日ではないですが、日本語を学ぶために語学センターに通っています。日本での習い事や塾のような活動にあたると思います。

家に帰った後は、夜ご飯までの時間を、学校からの宿題やテストの対策に使っていました。夜ご飯はほとんど外食で済ませるようで、食事のために出かけます。帰宅後、支度などをして23時過ぎ頃に寝るという生活でした。

【まとめ】

今回の調査で、シンガポールの人は日本とかなり違う生活をしていることが

分かりました。朝ごはんを食べないことや、寝る時間が短いことには大変驚きました。また、部活動の種類がとても多く、様々な活動を選べることはうらやましいところでした。私が行った学校は、チャイニーズスクールだったため、授業は英語で行われますが、中国語の授業がありました。複数の公用語をもつ国ならではの学校生活を知ることができました。他方で、授業の様子は、日本の方が落ち着いている印象でした。

【終わりに】

私が一番印象に残っていることは食べ物です。シンガポールではとても辛いものが親しまれており、どの料理にも香辛料が加えられていました。

また、シンガポールは多文化国家で、建造物や食べ物などがそれぞれの文化で異なっており、その違いを実際に感じる事ができとても楽しかったです。

今回の派遣はとてもよい経験となりました。最初は英語でコミュニケーションをとれるかとても不安でしたが、ホストファミリーの方が優しく迎えてくれて、最終的には帰りたくないぐらい、仲を深めることができました。しかし、言語の壁は大きいものだったので、もっと自分の思いを伝えられるように英語の学習を頑張っていきたいと思いました。



左：ホーカーセンターの様子 日本の屋台やフードコートのような感じです。辛い物が多い印象でした。

上：有名なカヤトースト。カヤジャムという甘いジャム（ずんだに似ている）を挟んだトーストを、醤油（のようなもの）をかけた半熟卵につけて食べます。